

特別セッション「東電福島第一事故から5年を経て 原子力学会活動の総括と課題」

東電福島第一事故から5年を経て 原子力学会活動の総括と課題

Summary of AESJ 5 years activities and issues to be solved for the TEPCO's Fukushima Daiichi Accident

*上塚 寛¹, 上坂 充², 駒野 康男³, 田中 治邦⁴, 佐藤 修彰⁵, 白木 貴子⁶,¹JAEA, ²東京大学, ³MHI NS エンジ⁴日本原燃, ⁵東北大学, ⁶三菱重工業

1. 概要

日本原子力学会は、東京電力福島第一原子力発電所の事故（東電福島事故）を防ぎ得なかった反省に基づき、学会の定款、倫理規定及び行動指針を改定するとともに、原子力に関する学術団体の責務として、長期にわたり福島復興と事故プラントの廃止措置などに真摯に向き合うべく活動を行なっている。

具体的には、事故直後には「原子力安全」調査専門委員会において検討を進め、その後、全部会・連絡会が参加する「東京電力福島第一原子力発電所事故調査委員会（学会事故調）」を発足させ、東電福島事故の原因究明と再発防止に向け組織横断的な調査・検討を行った。学会事故調は、その検討結果を報告書に取り纏め、多くの提言を行ない活動を終了したが、学会は、継続的にその提言をフォローしている。また、2014年度に設立した「福島第一原子力発電所廃炉検討委員会（廃炉委）」を中心に事故プラントの廃止措置に関する技術的検討等を進め、その成果を適宜発信している。さらに、福島復興の支援活動では、「福島特別プロジェクト」の活動を通じ、国や自治体、国内外の関連機関と協力し、地元への技術的支援、周辺住民の皆様とのコミュニケーション活動などを積極的に推進している。

各部会・研究専門委員会では、それぞれの専門分野において東電福島事故関連の研究を深化させるなど、今後の原子力利用における安全性向上を目指した活動を展開し、標準委員会では東電福島事故の教訓を踏まえた標準作成等を実施している。また、各地域の支部（8支部）においても、地域に根差した各種活動を行っており、特に被災地を抱える東北支部では、毎年シンポジウムを開催し、福島県における除染や復興に貢献する取組等を実施している。

また、福島復興と事故プラントの廃止措置という原子力学会単独では対応困難な課題に真摯に取り組むために、学際的取り組みを強化している。具体的には、廃炉委や研究専門委員会における他学会との協働や福島復興、廃炉推進に向けて多くの学協会間で情報交流や連携を図る各種活動を行っている。

2016年春の年会は東電福島事故からちょうど5年を経た節目にあたる。原子力学会として、東電福島事故にどのように向き合い、どのように取り組んできたか、原子力利用の安全性向上を目指して今後どのように取り組むべきか、今一度考える機会として、「特別セッション」（東電福島第一事故から5年を経て 原子力学会活動の総括と課題）を企画することとした。

本セッションでは、まず、原子力学会のこれまでの取り組みについて概要を説明し（経過説明）、引き続いて個々の具体的な取り組みを課題（反省）も含めて紹介する。更にパネルディスカッションでは、福島で活動されている方々から忌憚のないご意見を述べていただき、今福島が実際に抱えている問題を聴講者と共有したい。本セッションが各専門分野で取組んできた東電福島事故関連活動に対して、横串を刺したような情報交換、更には今後取り組むべき課題提起の場となることを期待する。

* Hiroshi Uetsuka¹, Mitsuru Uesaka², Yasuo Komano³, Harukuni Tanaka⁴, Nobuaki Sato⁵ and Takako Shiraki⁶¹JAEA, ²Tokyo Univ., ³MHI NS Eng., ⁴JNFL, ⁵Tohoku Univ., ⁶MHI

2. プログラム

<全体座長>

(企画委員長, MHI NS エンジ) 駒野 康男

(1) 開会挨拶 (11:30-11:35)

(会長, JAEA) 上塚 寛

(2) 学会としてのこれまでの対応 (経過説明) (11:35-11:55)

(企画委, MHI) 白木 貴子

(3) 事故調最終報告書における提言とその後の対応 (11:55-12:20)

(廃炉委 事故提言・課題フォロー分科会主査, 名大) 山本 章夫

(4) 福島第一原発廃炉に対する取り組み (13:00-13:45)

(廃炉委委員長, 法政大学) 宮野 廣, (廃炉委, 福井大学) 柳原 敏,

(廃炉委 リスク評価分科会主査, 東京大学) 山口 彰, (廃炉委幹事, 東海大学) 浅沼 徳子

(5) 福島復興に対する取り組み (13:45-14:30)

(福島特別PJ, 東芝) 三倉 通孝, (福島特別PJ, 電中研) 服部 隆利

(6) 安全性向上に対する取り組み (14:40-16:05)

(安全部会長, 標準委員長, 東大) 関村 直人, (安全部会, 東京大学) 糸井 達哉,

(安全部会, 標準委員会リスク専門部会幹事, 関西電力) 成宮 祥介,

(標準委員会, 東京大学) 越塚 誠一,

(ヒューマン・マシン・システム研究部会長, 岡山大学) 五福 明夫

(7) パネルディスカッション「今後取り組むべき課題は何か」(16:15-17:45)

<モデレータ>

(企画副委員長, 日本原燃) 田中 治邦

<パネラー>

(JA ふくしま未来 組合長) 菅野 孝志氏, (東北大学大学院 講師) 吉田 浩子氏,

(相馬中央病院 内科診療科長) 越智 小枝氏, (福島大学 特任研究員) 開沼 博氏,

(会長, JAEA) 上塚 寛, (安全部会長, 標準委員長, 廃炉委副委員長, 東大) 関村 直人,

(福島特別PJ, 東北大) 佐藤 修彰, (廃炉委幹事, 東海大) 浅沼 徳子,

(8) 閉会挨拶 (17:45-17:55)

(副会長, 東大) 上坂 充

3. 福島で活動されているパネラーの方々のご紹介

(JA ふくしま未来 組合長) 菅野 孝志氏

福島県農業短期大学校協同組合科 卒業

1990 年 10 月松川町農協 参事

1997 年 4 月 JA 新ふくしま 総務部長

2013 年 4 月 JA 新ふくしま 組合長

2016 年 3 月 JA ふくしま未来 組合長

チェルノブイリ原子力発電所訪問(2011 年 11 月)

東電福島事故後は積極的に福島の風評被害対策に取り組み、海外への福島産の PR など指揮

(東北大学大学院 講師) 吉田 浩子氏

東北大学薬学部 卒業、東北大学大学院工学研究科 工学博士取得

東北大学大学院薬学研究科 ラジオアイソトープ研究教育センター 講師

福島大学 災害心理研究所 客員研究員

専門は保健物理、放射線防護、線量評価

東日本高速道路(株) 「常磐道の供用に向けたリスクコミュニケーション検討会」アドバイザー(2012 年)

原子力規制委員会委託「福島第一原子力発電所事故に伴う放射性物質の長期的影響把握手法の確立に向けた検討会」 委員(2012～2014 年)

同「放射性物質の分布データの集約事業検討会」 委員(2015 年～)

保健物理学会 常務理事(2015 年～)

(相馬中央病院 内科診療科長) 越智 小枝氏

東京医科歯科大学 医学博士号取得

国保旭中央病院、都立墨東病院 勤務

Imperial College London 公衆衛生大学院、また、Harvard T.H. Chan School of Public Health (ハーバード公衆衛生大学院) で学ぶ

相馬中央病院 内科診療科長(2013 年 11 月～)

星槎大学 非常勤講師

専門は膠原病・リウマチ内科

(福島大学 特任研究員) 開沼 博氏

東京大学 文学部 卒業、同大学院 学際情報学府 修士課程修了

著書「『フクシマ』論 原子カムラはなぜ生まれたのか」(青土社)が第 65 回毎日出版文化賞(人文・社会部門)及び第 32 回エネルギーフォーラム賞特別賞

共著「原発避難論——避難の実像からセカンドタウン、故郷再生まで」(明石書店)が第 6 回地域社会学会賞選考委員会特別賞

現在、福島大学「うつくしまふくしま未来支援センター」特任研究員(地域復興支援担当)

総合資源エネルギー調査会 原子力小委員会 委員(2014 年～)

檜葉町 放射線健康管理委員会 副委員長(2015 年～)